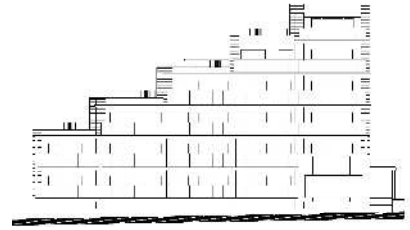


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)クレストフォルム湖南鶴沼計画新築工事	階数	地上6F
建設地	神奈川県藤沢市片瀬五丁目1840-1,1840-3,1840-4	構造	RC造
用途地域	第2種住居地域、第1種住居専用地域、準防火地域、法22条	平均居住人員	132人
地域区分	7地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	
竣工年	2023年12月 予定	評価の実施日	2022年7月20日
敷地面積	1,114 m ²	作成者	株式会社エフアイ都市設計
建築面積	642 m ²	確認日	2022年7月20日
延床面積	2,419 m ²	確認者	株式会社エフアイ都市設計



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆

① 参照値 ② 建築物の取組み ③ 上記+②以外の ④ 上記+

46 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5
Q1 室内環境: 4
Q3 室外環境(敷地内): 3
LR1 エネルギー: 2
LR2 資源・マテリアル: 1
LR3 敷地外環境: 1

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.5

音環境	3.3
温熱環境	3.8
光・視環境	3.4
空気質環境	3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.7

機能性	2.6
耐用性	3.0
対応性	2.5

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.1

生物環境	2.0
まちなみ	2.0
地域性・	2.5

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

建物外皮の	4.0
自然エネ	3.0
設備システ	4.0
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

水資源	3.0
非再生材料の	3.2
汚染物質	3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

地球温暖化	3.1
地域環境	3.0
周辺環境	3.1

3 設計上の配慮事項		
総合	良好な都市環境を形成し、賑わいのある街並みを維持するよう努める計画とした。また、耐用年数の長い配管を採用して更新必要間隔を長くするように努めた。	その他 特になし
Q1 室内環境	高い遮音性能のサッシを採用することで静かで快適な室内環境を整えるよう努めた。	Q3 室外環境(敷地内) 敷地内には適切に緑化を施すことで地表温度上昇を極力抑える計画とした。
LR1 エネルギー	適切な設備を採用することで省エネルギーに努めた([BEI][BEIm]=0.90)。	LR3 敷地外環境 適切な量の駐車場を設置して交通負荷抑制に努めた。
Q2 サービス性能	耐用年数の長い配管を採用して更新必要間隔を長くするよう努めた。	
LR2 資源・マテリアル	LGS工法より分別が容易とし部材の再利用可能性向上に努めた。	

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される